

開催趣旨

第20回京都研究会は「少子高齢化・人口減少社会に対して、私達はICTで何ができるか？」をテーマに開催することといたしました。

2015年の国勢調査によれば日本の総人口は1億2,709万人でしたが、厚生労働省社会保障・人口問題研究所の推計では、出生中位と仮定した結果によりますと、総人口は、2040年の1億1,092万人を経て、2053年には1億人を割って9,924万人となるという長期減少過程をたどるとされています。そして、50年後の2065年には8,808万人になるものと推計されているのです。

この人口減少は、全国一律に進むのではなく、地域ごとに人口減少社会の現れ方が大きく異なります。日本創生会議の消滅可能性都市の推計（2014年）では、2040年には日本全国1700あまりの市町村のうち半数が人口を再生産できない状況となるといい、消滅の可能性のある市町村と分類されています。その一方では、東京を始めとする大都市圏では人口高齢化が急速に進み、その構造変化への対応が喫緊の課題となっています。

こうした問題に対して、日本国政府はSociety5.0を掲げて、技術革新と高度情報基盤を装備した新たな社会像を提示して、社会経済の刷新を訴えています。AIやIoTの進展やその予想からすれば、われわれの社会が大きく変革される可能性があります。

第20回京都研究会では、こうした未来への可能性をICTによってどのように開いていくことができるのか、地域や情報技術のイノベーションによって何が可能となるのかを探ってみたいと考えています。

特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事 新川 達郎

研究会

13:00～17:00

● (仮)ICTが開く地域社会の未来～徳島県神山町の事例から～

■ 演者：新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/
NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事）
佐野 淳也 氏（同志社大学政策学部准教授）

● 人口減少社会における地域農業の課題と展望～ICT化の鍵とは～

■ 演者：隅岡 敦史
(NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター理事)

● 小規模サービス業の生産向上に資するスマホだけで可能な業務支援

■ 演者：竹原 司（インフォグリーン株式会社代表取締役/
株式会社デザイン・クリエーション最高顧問/
NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事）

● 少子高齢化・人口減少社会に対して、私達はICTで何ができるか？～スマートグラスについて～

■ 演者：北岡 有喜（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター医療情報部長/
NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問）

● 【会場参加者・演者を交えた総合討論会】

「少子高齢化・人口減少社会に対して、私達はICTで何ができるか？」

■ コーディネータ：新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/
NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事）

■ 登壇者によるパネルディスカッション

※ 演題名は変更の可能性があります。

演者を交えた分科会(茶話会)

閉会后～18:00

同会場にて開催

主催：特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター（SCCJ）

後援：京都市、京都新聞、ITコンソーシアム京都

お問い合わせ：SCCJ E-mail:info@sccj.com

少子高齢化・人口減少社会に対して、私達はICTで何ができるか？

第20回京都研究会

<http://www.sccj.com/kk/2018-2019>

SCCJ

Sustainable Community Center Japan

2019年1月25日(金)
13時～17時

同志社大学烏丸キャンパス
志高館SK289教室

※事前申込先着順



会場地図



●お申し込み：下記ホームページからお申し込み頂けます。

<http://www.sccj.com/kk/2018-2019> ※事前申込制

●参加費：有料

プラン	対象	一般	SCCJ会員 (企業・団体/個人)・学生 および地方公共団体職員の方
研究会のみ参加(13:00～)		1,000円	無料
研究会、懇親会すべて参加 (閉会后～18:00)		2,000円	1,000円

※一般参加費の1,000円とSCCJの個人会員の年会費1,000円は同額ですので、参加費用としてではなく、SCCJ個人会員としてお支払いされることをお奨め致します。